

# ◆連載

# いま留萌をかし

## ● 鉄道留萌線の開通

### 票告

一 留萌深川間鉄道は明二十三日ヨリ開通

一 十一月二十三日ヨリ向一週日各戸国旗並二軒提灯ヲ掲クル事

一 留萌深川間汽車発着時間左ノ通

留萌発 午前六時四十分  
午後三時二十分

深川発 午前十時十分  
午後七時

深川着 午前九時四十分  
午後五時五十分

留萌着 正午十二時四十分  
午後九時二十七分

以上

一 明二十三日(午前五時三十分合図ノ煙花三発) 午前六時二十分留萌駅ノ発車及正午十二時四十分ノ着車二対シテ八町民ハ礼服用停車場二出揃一斉二万歳ヲ唱ツル事

一 其他ノ発着車二対シテモ可成歓迎送ヲ為ス事

一 来ル二十八日正午十二時四十分ノ着車二対シテ八町民挙テ礼服用停車場二出揃万歳ヲ唱ヒテ乗客ヲ歓迎スル事

以上

明治四十三年十一月二十二日

留 萌 協 賛 会

これは留萌深川間の鉄道が開通する前日に留萌町民の有志によって出されたチラシである。留萌線の開通に寄せる留萌町民の喜びがこれに集約されているように思える。

留萌線は北海道の空知地方と日本海沿岸を結び、内陸部の開拓を促進しようとするのが目的であった。明治二十九年北海道鉄道敷設法ができ、その予定路線のなかに雨竜原野から増毛に至る路線があった。しかし、遅々として内陸の開拓が進行しなかつたために、一時、第一期予定路線よりはらずされていた。明治三十八年第二十二議会でこの予定

路線のうち深川留萌間が第一期に編入され、明治四十年二月に着工し、四十三年十一月約四ヶ年の歳月をかけて完成した。

これを受けて、一緒に運動を続けてきた留萌築港も、明治四十二年の第二十六議会で着工が決定し、翌四十三年四月から工事に着工した。

明治四十三年は留萌町民の長年にわたる運動が実を結んだ喜びの年であった。そして、新しい留萌建設の始まりでもあった。鉄道を汽笛を鳴らしながら走る汽車の雄姿に町民こぞって拍手を送り、万歳を唱え、旗行列に参加した。市街の全ての家々が国旗を掲げ、夜は提灯を軒につるし祝った。新しい港湾都市留萌の基礎が今作られようとしていた。

その後、大正十年留萌線は増毛までのび、戦後になって羽幌線が開通し、鉄道は北へ北へと延びていった。しかし、

その羽幌線も今年三月で廃止となり、バスに転換される。産業構造の変化、それに伴う地域の過疎化、交通体系の変化等、多くの問題が鉄道の廃止に集約されている。七十五年前の喜びがもう一度帰ってくることはないのだろうか。



### 明治末頃の留萌駅

るもい

### ● 特集 大型事業早期完成を目ざし全力投入

昭和62年4月発行・留萌市  
編集・総務部秘書企画課  
印刷・留萌印刷株式会社  
1987